

下高スポーツ 大躍進



葛貫亜優選手(写真左)、佐山杏選手(写真右) (塚原隆先生提供)

試合当日を含め、大会当初から雨が降っていた。葛貫さんと佐山さんは強豪校が揃う中、悪天候が功を奏し勝利を重ねていくことが出来たと大会を振り返る。試合ではたとえミスをして落ち込んだ様子を見せず前向きにプレーをしたという。塚原先生からのアドバイスと異なるプレーをしてしまったことがあったが、とにかくラリーを続けることを意識して点を重ねていった。「全国高校総体出場の鍵はショットボールの練習だった」と、葛貫さんと佐山さんは語る。ショットボー

部の練習が本番に生きていると分かり、自分たちを信じプレーを続けたという。部員をはじめ、先生たちとも仲が良いという印象が取材中から伝わってきた。先生と選手の距離が近いことで信頼関係が築かれ今回の勝利につながったのであろう。

全国高校総体は2019年7月30日から8月1日まで宮崎県で開催される。全国高校総体では1勝することが目標だと謙虚ながらも、お2人は話した。お2人の健闘を祈念します。

(館野)



2019年(令和元年)

7月11日
木曜日

発行所

茨城県立下妻第一高等学校新聞部

発行人 吉田 俊 則

編集人 稲葉 啓 斗



男女バドミントン部の皆さん (久永亜美さん提供)



6月11、12日に行われた茨城県予選学校対抗で第5位に入賞した、男女バドミントン部の萩原一成さん(3年4組、以下萩原さん)、久永亜美さん(3年2組、以下久永さん)、菊地宏之先生、吉田俊則先生にお話を伺った。

試合当日の様子として男子は落ち着いて部員同士が団結し試合に臨むことができたという。試合にはこれまでの練習や努力を信じ全身全霊をかけて臨み、今回の勝利につながったと萩原さんは語る。女子は試合のミスやショットに対して必ず声掛けをして心を1つにしたと久永さんは振り返る。男子、女子両方の善戦を支えたのは観客や選手からの応援であった。応援が支えとなり勝ち進むことができたとい

選手各々には道具へのこだわりがあるという。グリップを張り替えるたり、ずっと同じ会社のラケットを使ったりなど様々であること、を説明してくれた。道具へのこだわりが勝利への執念となり今回の結果につながったのであろう。バドミントン部全体としては今回負けてしまった常総学院との試合での勝利を目標とすると語った。部活全体の躍進を祈念します。

(館野)

購買部の清水さん

美味しいものを食べると幸福感で満たされ、思わず笑みがこぼれる。購買ではそのような商品をお手頃な価格で買うことができる。そこで、今回は購買でいつも美味しいパンを作ってくたさる『九十パン』の清水幸子さんに取材をした。『九十パン』は清水さんで3代目になるという。下高では定時制の頃から食パンやコロッケパンが販売されており、60年もの間生徒たちに愛され続けている。その理由の1つとして防腐剤、着色料、保存料が全く使われておらず体に良い自然な材料で作られているということだろうと清水さんは振り返る。また価格が安いことも挙げられる。安さの秘

密は、学校との契約で市販のパンよりも10円安く販売しているとのことだった。新商品の開発においては、本やテレビを見て勉強したり、パンの勉強会で知識を身につけて商品を開発したりすると清水さんは説明してくれた。『九十パン』にしかないパンを今後も売っていきたいと清水さんは目標を語ってくれた。1日にパンを生産する量については決まっていないが、注文があれば沢山作るという。何より添加物が入っていない分、長持ちさせることができないのであるべく残らないようにしているそう。また、学校で販売している商品は3人で作っているそう。仕込みをする

人と販売をする人で役割分担をし、1日の労働時間は10時間以上にもなり種類が多くなるほど時間がかかり大変だという。そのような中でも、自分たちで作ったパンが美味しいと言われた時は幸せな気持ちになると清水さんは言う。

(茂田)



世の中には幽霊が見えると自称する人は存在しているが、その人が本当に幽霊を見えているのかを確かめるのは難しい。幽霊を見るのができない普通の人は本当にいるのか、いないのかは分からない。人は自分が目で見えた光景だけしか見ることができず、他人の目で見えた光景を共有することはできない。自分の見えている物と他人が見た物が同じとは限らない。これは見え方だけでなく考え方や感じ方にも見えるかも

しれない。人間の目、もしくは見るという能力は「百聞は一見にしかず」のことわざのように、人間が物事を理解する時に大きな役割を果たす。しかし、人間の目は決して完璧なものではなく、よく間違った情報を仕入れてしまう。それは生理的な目の錯覚が原因のときもあれば、「幽霊の正体見たり枯れ尾花」の句のようなただの勘違い、見間違いが原因のときもあるだろう。これらは目によって引き起こされる見え方の違いだが、考え方や感じ方の違いでどのように見えたかが、変わることもある。人は育った環境や文

化、周囲の人との関わり、触れた情報などで価値観は無限に変化していく。好きなもの、嫌いなもの、良いこと、悪いこと、人の感情が向く先は価値観によって分かれている。見たものが同じであっても、その捉え方や考え方が、感じ方が根本から異なっているように見えるだろう。

(岩田)